

三角山の会

SAPPORO·NISHIKO.OG & OB,.....

初の同期会開かれる!

去る3月15日三川屋会館3階の大広間で、札幌西高等学校第20期(昭和45年卒)同期生の、卒業後初の同期会が開かれ105名(主催者側発表)の同期生が集った。

今回の同期会は、昨年暮れにススキノの片隅で酒を飲んでおりました新潟から帰札中の鈴木伸哉君の同期会するべやの一言から端を発しまして、数日後に準備委員会を発足、ついで各クラス幹事を選任し、卒業後満10周年に当たる3月15日開催に向けて活動を開始したのであります。その後各クラス幹事は名簿作成に東西奔走し、道外居住者の追跡に自腹を切って長距離電話をかける等、並々ならぬ努力をしたのであります。4月に来た電話局の請求書に胸を痛めたことと思います。そのかいあって6割強の消息が判り、105名の大集合という快挙を成し遂げたのであります。ここに書く漢字の努力に感謝致します。尚、奇しくも当日は、西高の先生方の同期会が開かれた為、我々の会場にはお呼びする事ができませんでした。

105名の歓談三川屋会館を揺るがす。

午後6時10分、幹事長池田顕より開会の挨拶、次いで各クラス幹事の紹介があり、とりあえず諸幹事の任期を一年と決定した。続いてこの同期会の名称を母校の背後にそびえる三角山にちなんで「三角山の会」とする旨の賛否をはかったところ、全員一致で決定し、ここに西高第20期卒業生同期会「三角山の会」が発足した。これに引き続き宴会が始められ、会場のあちこちで近況の報告、あの人はどうなったの話が沸き起こり、当初卒業時クラス別に座っていた席も次第に崩れ、各出席者は10年の星霜を一気に取り戻すべく歓談した。その熱気は筆舌に現し難いが、談合の声がさながら地鳴りの様に轟きわたり、鉄筋コンクリート5階建ての三川屋会館もあわや倒壊するかの如くであった。このため、本会がシラケてはまずいと幹事会が準備した各プログラムも催す間もなく、大盛況のうちに午後9時30分第1回の「三角山の会」は散会した。尚、当日は旭川より桑山秀人君、新潟より本会の発起人である鈴木伸哉君、また、たまたま同日まで道立美術館で展覧会を開いていた村田徹君等、遠方からの参加者があったが、今後もできる限り市外の皆さんが出席できるような日を選定して会を開催していきたいと考えていますので、よろしくご参加下さい。

西高美術クラブ部長だった北口進一君に「三角山の会」のロゴを作ってもらいました。10年前の宮の森を感じさせる素晴らしい作品です。会報のタイトルです(左上を見てください) 会報の発行が遅れに遅れ、会費を払った会員の中には、これはとんでもないサギ事件に巻き込まれたのではないかと危惧を抱いた方もあろうかと思ひます。まことに申し訳ない。 池田顕